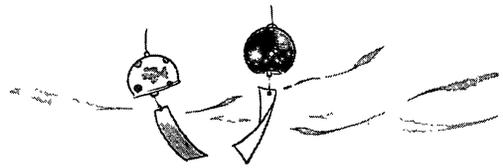


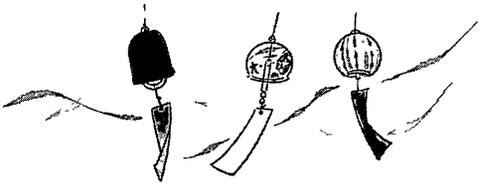
穂麦の花束

宮坂静生



石楠花の四方に放てる歓喜かな  
石楠花に紫雲のかかる日の出前  
しゆくと背の痛む石楠花冷えの暁  
石楠花の異域の途を照らしをり  
石楠花に立つ佛の青山俊董尼  
石楠花を過ぎ石楠花に戻らざり

わが岳友



雀色時石楠花の花卉の斑  
石楠花さみし轟々と沈々と  
石楠花の尽るゝときのきて尽る  
キューエール(スプーン)の店  
卓布に立て穂麦の禾の花束を  
熊虫譚  
熊といふ微小くまむし熊の貌  
くまむしの日照りの夏は乾眠す  
顕微鏡にくまむしにつこりと晩夏

くまむし一ミリ以下の微小の生き物。四対八本の脚をもつ。

〔俳句四季〕七月号発表作・石楠花を含む